

# 写しの力

## 創造と継承のマトリクス

島尾新

(学習院大学教授)

彬子女王

編

亀田和子

(ハワイ・パシフィック大学美術史学講師)

(立命館大学衣笠総合研究機構招聘研究教員)

▼A5判・二五六頁／定価 四、二〇〇円(税5%込)

ISBN978-4-7842-1711-3

【二〇一四年一月刊行】

二項対立的に「オリジナル」と「コピー」を捉え、模本を原本に劣るものとして考えるのではなく、日本美術における模写の伝統をさまざまな角度から再検討する試み。

ハワイ大学で行われた国際シンポジウム『Utusushi』の成果の一〇篇。

一〇篇。



### ○内容目次

序 島尾新

はじめに 『Utusushi』から『写しの力』へ  
亀田和子

### 第一部 中国への憧れと写す

第一章 日本文人画における間画像性と写し  
ポール・ベリー (日本美術研究家)

第二章 文人理念と「写し」のジレンマ—中林竹洞筆「蘭亭図巻」を例として  
亀田和子

第三章 近代陶磁と特許制度

—清風與平家から見た「写し」をめぐる京焼の十九世紀  
前崎信也 (立命館大学立命館グローバルイノベーション研究機構専門研究員)

### 第二部 図像の伝承としての「写し」

第四章 図像と写し—「伊勢物語絵」と俵屋宗達  
ジョシユア・モストウ (ブリティッシュ・コロンビア大学教授)

第五章 騎虎鍾馗の図像の伝承と変容  
永田真紀 (美術史家)

第六章 室町水墨画における「写し」—図様と表現の観点から  
畑靖紀 (九州国立博物館主任研究員)

第七章 富士三保松原図の図様伝播—狩野派を中心に  
山下善也 (京都国立博物館学芸部連携協力室長)

### 第三部 「写し」の意味と役割

第八章 海を渡った法隆寺壁画—西洋における「うつし」の役割  
彬子女王

第九章 写しの文化における舞台表現の伝承  
松葉涼子 (日本学術振興会特別研究員P.D)

第一〇章 写しの文化—「オリジナル主義」再考  
島尾新

あとがき 彬子女王

## 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行: 思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	写しの力		本体4,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1711-3
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				

本書HPのQRコード

書店番線印

**風俗絵画の文化学Ⅱ 虚実をうつす機知**

松本郁代・出光佐千子・杉子女王編

風俗絵画とは虚実をうつす機知の媒体である。美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かした風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究。絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」を明らかにしていく15篇。  
▶A5判・450頁／定価 7,350円 ISBN978-4-7842-1615-4

**原本『古画備考』のネットワーク**

古画備考研究会編

原本『古画備考』（東京藝術大学附属図書館所蔵）を徹底的に解剖することにより、江戸時代後期に『古画備考』を〈書画情報〉総合集積の場として大規模に繰り広げられていた古画研究ネットワークの実態を浮かび上がらせる。また、活字本『増訂 古画備考』などから近代における『古画備考』の受容の様相を検討した17論文の総合論文集。  
▶A5判・498頁／定価 9,660円 ISBN978-4-7842-1674-1

**田能村竹田基本画譜 [全2巻]**

宗像健一編著

図版篇には厳選された140点(カラー95点・モノクロ45点)の作品を大型図版で収録。解説篇には総論と基本作品の詳細を極めた個別解説のほか、題詩・落款・印譜・年譜などを収録。田能村竹田研究では他の追随を許さない編者による作品選別は、今後の研究の基盤となる。  
▶B4判変・総398頁／定価 29,400円 ISBN978-4-7842-1566-9

**室町水墨画と五山文学**

城市真理子著

室町時代中期の画僧「岳翁」と東福寺僧了庵桂梧の関係を手がかりに、詩画軸制作のありようを探り、雪舟と関連づけることで、周文の実像に迫ることを試みる。さらに禅僧の文人的営為を反映するものとして、周文筆と伝えられる詩画軸や煎茶図様水墨画について考察。  
▶A5判・336頁／定価 6,300円 ISBN978-4-7842-1607-9

**※近世京焼の研究**

岡佳子著

桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれたやきものの窯業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明らかにし、そこに野々村仁清・尾形乾山・奥田頼川・仁阿弥道八など京焼の名工たちの生涯と作品を位置づけ、近世京都の特質を明確にした。京焼の通史を見直した一書。  
▶A5判・434頁／定価 6,615円 ISBN978-4-7842-1558-4

**近代日本における書への眼差し**

高橋利郎著

日本書道史形成の軌跡

毛筆で書かれた肉筆の文字資料が近代に「書」として位置付けられていく過程を、書道史に関する出版をはじめ、宝物調査や展覧会の列目、また文化財関連の法令から探り、近代における書道史形成の軌跡をたどる。  
▶A5判・304頁／定価 5,040円 ISBN978-4-7842-1595-9

**近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ**

依田徹著

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか？千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。  
▶A5判・332頁／定価 6,720円 ISBN978-4-7842-1693-2

**新訳絵本 伊勢物語 [全2冊]**

田中大穂著

日本の古典『伊勢物語』の心を全章段にわたって彫心鑿骨の版画にした労作であり、『伊勢物語』の研究史上、前人未踏の画期的な著作。本書の現代語訳は著者が苦心の意識を添えたものである。

【和装帙入】

▶A4判・総650頁／定価 26,250円

ISBN4-7842-0173-4

**宗達伊勢物語図色紙**

羽衣国際大学日本文化研究所伊勢物語絵研究会編

近年発見された色紙も含め「宗達伊勢物語図色紙」59面のすべてをカラー、原寸大で掲載し、色紙に描かれた伊勢物語の世界の解釈、伊勢物語絵巻・絵本との比較対照、さらに、宗達における色紙の位置づけ、裏書の解説、色紙の特徴的な構図と技法、色紙成立の動機、色紙をめぐる人的ネットワークなどに関する新たな知見を収める。  
▶B4判変・220頁／定価 19,950円 ISBN978-4-7842-1679-6

**黄金のとき 桃山絵画**

京都国立博物館編

信長・秀吉と狩野永徳に象徴される桃山時代の絵画を狩野派とそれをめぐる作家たちの作品を中心に構成。大画面一幀・屏風・大絵馬・杉戸絵一を主として基本作品全100点を全8章に分けてオールカラーで収録し、各章ごとにテーマ解説を掲げ、適宜部分拡大図を収めた。巻頭概説「祭の終り―桃山時代絵画の展望」のほか巻末に作品解説を収録。  
▶B4判・400頁／定価 42,000円 ISBN4-7842-1044-X

**没後220年 蕪村**

逸翁美術館・柿衛文庫編

南画・俳諧、さらに俳画の大成者として輝かしい足跡を残した与謝蕪村(1716-83)の没後220年を記念し、逸翁美術館と柿衛文庫が共同で編集。南画・俳画・嫁入手・扇面・草稿・短冊・俳書・書簡など、新出作品もふくめ全176点を解説を付してカラーで収録。書簡については巻末に翻刻・解説を併載。  
▶A4判・210頁／定価 2,310円 ISBN4-7842-1162-4

**松花堂昭乗と瀧本流の展開**

山口恭子著

近世初期、本阿弥光悦、近衛信尹と寛永の三筆と並び称され、寛永文化の一翼を担った松花堂昭乗。昭乗と瀧本流の書について造型的な面のみならず、昭乗の著述した文芸作品、瀧本流の法帖など、文献資料や版本に対する細やかな検討を行うことにより、近世の書道史、出版史、文化史など広範な研究分野に新しい知見を提供する。  
▶A5判・356頁／定価 9,030円 ISBN978-4-7842-1559-1

**動物・植物写真と日本近代絵画**

中川馨著

「明治後期から太平洋戦争以前の日本における動物・植物写真」を考察範囲とし概説する。またその「動物・植物写真集」が、美術資料として担った役割を解き明かすことにより、近代日本の「写真」と「絵画」との関連性を論究する。  
▶A5判・256頁／定価 5,250円 ISBN978-4-7842-1598-0

**京都 伝統工芸の近代**

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容を上げて現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。  
▶A5判・300頁／定価 2,625円 ISBN978-4-7842-1641-3

**河北倫明美術時評集 [全5巻]**

河北倫明著

美術界の最前線を歩んできた美術評論家・河北倫明氏による戦後美術史の決定版。美術評論やエッセイなど、昭和22年から平成3年にかけて執筆されたものの集大成。各分野ごとに分類、執筆年代順に配列されている為、意義深い戦後の美術年譜となっている。  
▶A5判・平均500頁／揃定価 37,170円

**中世考古美術と社会**

難波田徹著

思文閣史学叢書

古絵図研究20年の著者が、元徳本祇園社絵図、社寺参詣曼陀羅図、関ヶ原合戦図、高山寺・善妙寺領[ボウ]示絵図などを題材に古絵図を論じ、鞍馬寺、花背別所、大道寺、北野天満宮などの経塚や大日寺、法金剛院、飯盛山などの瓦塚の研究から埋塚を論じる。更に懸仏の検討を通して御正鉢論を展開する。  
▶A5判・556頁／定価 10,290円 ISBN4-7842-0649-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。